

# 「考え、まとめ、伝える」活動を通じた表現力の育成

～ミニプロジェクト学習におけるICTを活用した表現活動及び評価シートの工夫を通して～

都城市立高城小学校

〒885-1202  
宮崎県都城市高城町穂満坊20番地

<http://www.miyazaki-c.ed.jp/takajo-e/>

## 1. はじめに

本校児童は、大変素直であり、日々教師の言うことをよく聞き学習に前向きに取り組んでいる。しかし、授業中の様子を観察していると、自分の考えを積極的に発表したり進んで自分の考えを言ったりすることのできる児童は少ない。また、発表する際にも、下を向き小さい声のため、十分な発表態度とは言えない。全体的に、表現することについては消極的であり、児童からは「恥ずかしい」「自信がない」などの声が聞かれる。

本校は、都城市の北部に位置し、周りを自然に囲まれた地域である。校区内には、城跡や文化財を残す伝統的な場所でもある。小さい頃から家族や近隣の人などとは密に関わってきているが、他の人との関わりを持つ機会はあまり多くない。

児童の表現に対する現状を考えたときに、次の2点を感じている。

- ① 伝えたいという意欲に欠ける。
- ② あまり表現する活動を行っていない。

これまで「自分の考えや思いをしっかりと表現できる児童の育成」という研究主題のもと、国語科の読み取りの指導を中心に授業実践を通して3年間の研究に取り組んできた。その中で、少しずつ自分の考えや思いを話したり書いたりすることができるようになってきた。ただ、その内容等を見ると自分が伝えたい内容を十分に選択・整理されていなかったり、相手を意識したものになっていなかったりといった状況である。

## 2. 研究の目的

現在、少しずつ高まりつつある「表現する力」をより向上させるためには、さらに学習活動の中で表現する場を設定し、「伝える」ことを意識した活動を仕組んでいくことが重要である。また、これまでの国語科を中心とした取り組みに加え、より様々な表現方法に触れさせるために「情報の収集・加工、情報の分析、情報の発信」という情報教育の観点から表現活動を行っていくことにより、情報活用の実践力の育成につながるのと同時に、児童の表現力の向上ができると思う。

具体的には、総合的な学習の時間において「ミニプロジェクト学習」の実践を通して進めて行く。特に、学習の中にICTを活用した「考えて、まとめて、伝える」という各段階を設定し、児童の考える場と表現する場を位置づけ「自分の考えを伝える力」の向上を目指す。また、ねらいとする目的と活用するICTについての評価シートを用いて、活動を通して目的が達成できたかを確認しながら学習が展開できるようにする。

【ミニプロジェクト学習】

○ 10～20時間程度の課題解決学習。児童の実態や学習内容（教科等）と関連した内容に基づく学習を組む。特定の目的・目標・狙いをもち、特定のテーマを解決するために期限付きで実施される活動とする。

3. 研究の方法

3年生～6年生の総合的な学習の時間（75時間）の中に、年間2本のプロジェクト学習（25時間程度×2本）を計画して実践を図っていく。その際、ICTの技術的な部分を育成する時間も活用する機器により確保していくようにする。主に、1学期は計画時期とし、各教師が本実践の意図を明確につかみながらできるように共通理解を図りながら、2学期以降で実践を計画していった。

計画の内容については、各学年の教科の学習内容と関連づけたり、地域の特性を考えたりしながら設定することとした。特に、新学習指導要領の内容も考慮し、国語科・社会科との関連を図ることで、表現活動のさらなる向上につなげることができるのではないかと考えた。また、自分たちの学習内容を一つ下の学年に伝える活動を計画することで、学年間交流が図れるとともに、相手を意識した活動につながると考えた。

(1) ミニプロジェクト学習活動案の作成

ミニプロジェクト学習 計画案(4年生)	
活動名	「高城紹介ポスター」をつくる
時数	30時間
本活動のねらい	
<p>本活動は、高城地区を知らない人たちに「高城地区のよさ」を伝えるポスターを作成していく過程で、あることである「高城地区」について振り返り、様々な手段で情報を集め、それをもとにICTを適切に活用しながら、ポスター形式で自分なりに工夫し構成してまとめた活動を通して情報活用の実践力と表現する力を培うことをねらいとして設定した。</p> <p>ポスターとは、自分が伝えたい内容を適し、画像と短い言葉で効果的に表現することが大事である。ポスターに活用する文章は、長い文章ではなく短い言葉で「伝えたいこと」を表現する事が大事である。その点を導入段階できちんと整理し、学習を促す。</p> <p>本活動では、前単元「高城写真集をつくらう」で行った内容も取り入れる。今回は、前回と違い1枚の写真だけでなく、他の内容も取り入れながら「ポスター形式」で発表するという、別な表現方法でまとめることにする。そういった活動より、様々な表現方法をその効果の違いに気づけるようにする。また、前単元で行ったキャッチコピーの学習も活用しながら、自分が伝えたいことを言葉や文で相手にわかりやすく効果的に伝えるようにする。さらに、パソコンでまとめることにより、拡大コピーをしたり何枚も印刷したりして、活用することができることを知らせる。</p> <p>このような学習を行うことによって、情報手段を適切に活用する力を育成し、自分なりの表現する力を養っていくことができ、本校の目指す「自分の思いを情報手段を効果的に活用して分かりやすく表現する児童」の育成につながることを考える。また、発信する情報に責任を持っていくような指導も加えていくようにし、情報発信の大切さと同時に情報モラルについても指導していく。</p>	
活動の大まかな流れ	
<p>◎ステップ1：ポスター作成のポイントと伝える内容を調べる。【5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高城地区のよさについて考える。(2)</li> <li>・ 前単元の内容を活用し、「高城地区のよさ」をいくつかのポイントに絞る。</li> <li>○ 伝える内容について決定する。(1)</li> <li>・ 考えたり調べたりした内容を整理して、自分なりに何を伝えるのかを決める。</li> <li>○ ポスターのポイントについて考える。(2)</li> <li>・ 実際のポスターを確認し、特徴的なことについて調べる。</li> <li>・ 伝えたい内容を短い言葉（キャッチコピー）でまとめる。</li> <li>・ 大きな写真を使ったり、伝えたい内容を表す写真を使ったりする。</li> </ul> <p>◎ステップ2：写真・キャッチコピーを構成してポスター形式にまとめる。【20時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ デジタルカメラで撮影する。(10)</li> <li>・ 様々な視点で撮影する。</li> <li>・ 伝えたい内容を表す写真を考えながら撮影する。</li> <li>・ 撮影したものの中から、今回活用する写真を選択する。</li> <li>・ 遠んだ写真に対して、どんなキャッチコピーをつけるかを考える。</li> <li>○ ポスターを作成する。(10)</li> <li>・ ポスター全体を考えながら、ポスターの構成を作成する。</li> <li>・ 写真の構成に応じて、キャッチコピーを配置する。</li> </ul> <p>◎ステップ3：ポスターセッションを行い、ポスターを展覧する。【5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ポスターセッションを行い、各ポスターの良さや修正点について考える。</li> <li>○ ポスターの修正をする。</li> <li>○ 活動を振り返り自己評価をする。</li> </ul>	
本校の研究との関連(◎本単元重点項目)	
<p>【中学年】伝える相手を意識して、自分の思いや考えを分かりやすく表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 伝える相手がいることを考えて表現する。</li> <li>○ 5W1Hを表現しながら分かりやすく表現する。</li> <li>○ 調べたことを整理し、自分の意見を加えて表現する。</li> <li>◎ 文章のタイトルを伝えたい内容に応じて工夫する。</li> </ul>	
ICTの活用について	
<p>【パソコン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 構成を考えながら、画像を貼り付けることができる。</li> <li>・ 画像を貼り付け、回転したり、拡大・縮小したりすることができる。</li> <li>○ 文字入力ができる。</li> <li>・ キーボードから行うことができる。</li> <li>・ キーボードが難しい児童はソフトキーボードを活用する。</li> <li>○ 文字の大きさ・形・色の工夫をする。</li> <li>・ タイトル文字を活用し、様々な表現方法を知る。</li> </ul> <p>【デジタルカメラ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ デジタルカメラを活用して、撮影することができる。</li> <li>・ イメージした通りの写真を撮影することができる。</li> <li>・ 表したいものが中心になるように撮影することができる。</li> <li>・ 全体の暗さを考えながら撮影することができる。</li> </ul> <p>【情報モラル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ポスターに使われている写真には「著作権」があることを知る。</li> <li>・ 自分が撮った写真を使うことが大事であることと著作権について知る。</li> </ul>	
本単元の評価について	
<p>◎ 単元目標</p> <p>ICTを適切に活用しながら、様々な写真の配置等と伝えたいことを表す適切な言葉・文を考えながら高城地区のよさを伝えるポスターを作成することができる。</p> <p>【よくできた】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICT活用して、自分の伝えたいことに適した数枚の画像を選択し、その画像に応じた言葉・文で効果的に高城地区のよさを表すポスターを作成することができる。</li> </ul> <p>【できた】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICT活用して、数枚の画像と言葉・文を活用して、高城地区のよさを表すポスターを作成することができる。</li> </ul>	
教科との関連について	
<p>○ 国語科</p> <p>【4 目的による表し方のちがいを考えよう ～広告と説明書を読みくらべよう】</p>	

【図1 活動案の具体例】

活動の内容がお互いがよくわかるように、また本活動が校内・校外へ広がっていくように、「活動案」(図1参照)の作成を行った。活動案については、できるだけコンパクトに活動の目的や内容がわかるように構成を次のように工夫した。

- 本活動のねらい→活動の背景，育成する力，活動の概要について記す。
- 活動の大まかな流れ  
→大きく3つの段階（調べる，まとめる，伝える）で活動の流れを記す。
- 本校の研究との関連  
→本校研究で考えている育成すべき内容との関連を記す。特に，重点項目を記す。
- ICTの活用について→本活動と関連したICTと具体的活用内容について記す。
- 本単元の評価について→本単元における具体的到達目標と2段階の項目を記す。
- 教科との関連→教科学習のどの単元と関連しているかを示す。

## (2) 到達評価シート（伸びようシート）の作成

【高城写真集をつくろう】伸びようシート 4-2  
4年（ ）組 名前（ ）

<b>デジタルカメラ</b>			
○ イメージした写真を撮影することができる	できる	できない	
○ 表したいものを中心に撮影することができる	できる	できない	
○ 明るさを考えて撮影することができる	できる	できない	
<b>パソコン（ジャストスマイル）</b>			
○ デジタルカメラの画像を自分のフォルダに取り入れることができる	できる	できない	
○ キーボードから文字入力できた	できた	できない	
● ソフトキーボードの入力できた	できた	できない	
○ タイトル文字を活用することができた	できる	できない	
○ 文字の形や色を変えることができた	できる	できない	
<b>情報モラル（情報を使うときのルールやきまり）</b>			
○ 作品には「著作権」があることがわかった。	わかる	わからない	
○ 著作権の意味がわかる	わかる	わかった	
<b>作品について（1とても 2だいたい 3あまり 4ダメ）</b>			
○ 自分の考えた作品をつくることができたか		1	2 3 4
○ 自分の作った作品に満足したか		1	2 3 4
○ 今回の学習は楽しかったですか		1	2 3 4
○ 今回の学習で難しかったことは・・・			
<b>学習の感想</b>			
.....			
.....			

【図2 評価シートの例】

活動全体も振り返るようにした。その際，自由記述欄も設け，児童が学習をどうとらえたのかも把握できるようにし，活動の計画を振り返ることとした。

## 4. 研究の内容

### (1) 年間の計画

各学年での年間を通じての計画は次の通りである。

活動終了後，児童が自己評価できるように「評価シート」（伸びようシート）を作成した。

児童が，今回の活動でねらいとした力が育成できたかを自分自身で振り返ることができることと教師側が児童の評価を受けて内容により再度指導を行うことを目的とした。特に，ICTに関する内容については「できる」「できない」と2つの段階で判断し，児童がその力をできるだけしっかりと身につけるようにした。本シートで「できない」とした児童については，事後再度個別指導を実施し活動でねらったICT活用能力を身につけるようにした。学年の実態に応じて「情報モラル」についても身につけていくようにした。

また，作成物を振り返る項目も付加し，

学年	活動名	活動内容
3年生	①ふるさとの宝物をさがそう ②福祉って何だろう	○ 模造紙で調べたことを表現する。 ○ 体験したことをもとに、内容をまとめデジタルカメラの画像を用い、模造紙で表現する。
4年生	①高城写真集をつくろう ②高城紹介ポスターをつくろう	○ 画像1枚とキャッチコピー、文で表現する。 ○ 複数の画像を用い、パソコンを活用しポスター形式で表現する。
5年生	①宿泊学習をまとめよう ②1年間の成長をあらわそう	○ 体験したことをパソコンを用いてパンフレット形式で表現する。 ○ 1年間を振り返り、プレゼンテーションにまとめて表現する。
6年生	①学校を宣伝しよう ②5年生に修学旅行を伝えよう	○ 画像、キャッチコピーを用いて、ポスターやビデオ形式で表現する。 ○ 体験したことをもとに、相手を意識してプレゼンテーション形式にまとめ表現する。

## (2) 具体的実践内容(4年生の例)

### ○ 高城紹介ポスターを作ろう

本単元は、高城地区を知らない人たちに「高城地区のよさ」を伝えるポスターを作成していく過程で、ふるさとである「高城地区」について振り返り、様々な手段で情報を集め、それをもとにICTを適切に活用しながら、ポスター形式で自分なりに工夫し構成してまとめるといった活動を通して情報活用の実践力と表現する力を培うことをねらいとして設定した。また、4年生では、国語の学習で「ポスターと取扱説明書を比べる」という学習を行い、ポスターについての学習（写真の配置、キャッチコピー、文字の形・色など）を行っている。学習したことをもとにしての発展学習としても考えた。

### 【本単元の大まかな流れ】

#### ステップ1：ポスター作成のポイントと伝える内容を調べる。【5時間】

- 高城地区のよさについて考える。(2)
  - ・ 前単元の内容を活用し、「高城地区のよさ」をいくつかのポイントに絞る。
- 伝える内容について決定する。(1)
  - ・ 考えたり調べたりした内容を整理して、自分なりに何を伝えるのかを決める。
- ポスターのポイントについて考える。(2)
  - ・ 実際のポスターを確認し、特徴的なことについて調べる。
  - ・ 伝えたい内容を短い言葉（キャッチコピー）でまとめる。
  - ・ 大きな写真を使ったり、伝えたい内容を表す写真を使ったりする。

## ステップ2：写真・キャッチコピーを構成してポスター形式にまとめる。【20時間】

- デジタルカメラで撮影する。（10）
  - ・ 様々な視点で撮影する。
  - ・ 伝えたい内容を表す写真を考えながら撮影する。
  - ・ 撮影したものの中から、今回活用する写真を選択する。
  - ・ 選んだ写真に対して、どんなキャッチコピーをつけるかを考える。
- ポスターを作成する。（10）
  - ・ ポスター全体を考えながら、ポスターの構成を作成する。
  - ・ 写真の構成に応じて、キャッチコピーを配置する。

## ステップ3：ポスターセッションを行い、ポスターを見直す。【5時間】

- ポスターセッションを行い、各ポスターの良さと修正点について考える。
- ポスターの修正をする。
- 活動を振り返り自己評価をする。

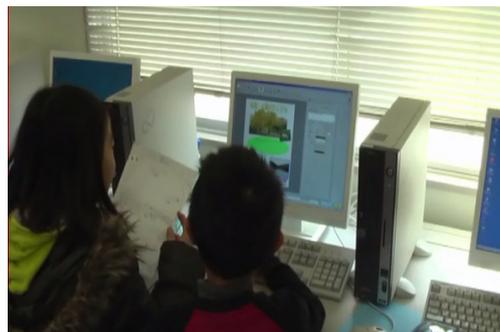
### 【ICT活用のポイント】

本単元では、ICTの活用を次の2点のポイントとした。

- デジタルカメラでポスターで紹介したい場所の写真を撮影する。
- パソコンを活用し、数枚の写真とキャッチコピー、文章をレイアウトしながらポスターを作成する。

### 【活動の様子】

児童は、自分たちの考える紹介したい場所の画像をデジタル



カメラで撮影していった。その際、角度を変えたり、ズーム機能を活用しながら数十枚の写真を撮影し、その中から必要と思われる写真を選択していった。紹介したい場所が同じ場合、ほかのグループの撮影した写真も見比べながら選択していった。パソコンによるポスター作成では、画像の大きさ・角度を変えたり、文字の色や形を工夫したりして作成していった。当初は、パソコンの機能ばかりに目を引かれていたが、グループごとに見直しをしたり、校内の先生方に意見をもらう中で、キャッチコピーや文章の内容が重要であることに気づいていった。また、互いの作品を見合う中で、他のグループの工夫を取り入れたり、お互いの良さを認め合う姿勢も見られた。最後には、ポスターセッションを行い、お互いの投票でどの一番よい作品を選出した。

## 6. 研究の成果と今後の課題

### ○ 実践後のアンケート調査から

アンケート項目 (%)	できる	だいたい	あまり	できない
自分の思いや考えを上手に書けるようになったか	25	42	25	8
適切な資料を選ぶことができるようになったか	38	32	22	8
要点を整理し、資料作成ができるようになったか	37	28	27	8
機器を活用して上手に発表できるようになったか	41	24	25	11
ローマ字入力ができるようになったか	44	32	15	8
デジタルカメラは上手に使えるようになったか	36	26	24	14
パソコン操作は上手になったか	52	22	17	9

上記の結果より、本年度の取り組みにより、表現関係については6割強の児童が自分自身の変容を感じることができたようである。実際、総合的な学習の時間だけでなく、日常の教科学習の中でも積極的に表現しようとする姿勢が以前よりは増えてきている。ただ、約3割以上の児童が不十分であると感じており、今後の課題の一つである。個人差はあるものの、児童の様子を振り返ってみると、まだ下を向いて発表したり、口があまり開いていないという面もある。よい発表の形を再度児童と確認しながら、項目を設定し一つ一つができていくかを確認しながら進めていく必要を感じた。

I C Tの活用については、評価シートの活用もあり、文字入力やパソコン操作については7割以上の児童が変容を感じることができた。デジタルカメラ操作については、「おおむねできる」と思っている児童が62%でやや劣る。これについては、パソコンが一人1台の環境であることに比べ、デジタルカメラの台数も関係しているものと思われる。自信のない児童は、どうしても、他の児童に頼ったり、避けたりする傾向がある。

本実践を通して、教師側が積極的に「表現する場」を設定することで、児童は少しずつ自信を持ち表現活動に取り組めるようになる。また、I C Tを取り入れることで、自分の作品への満足度も増し、意欲の向上や活動への楽しみにつながっている。

### 【参考 web ページ】

○<http://kayoo.org/> 「火曜の会 HomePage」